

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 埼玉医科大学  
理事長 丸木 清

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	69 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照 (様式第12)
- 5 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照 (様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	289人	142人	316.8人	看護業務補助	83人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	5人	9人	6.4人	理学療法士	18人	臨床検査 衛生検査 その他	臨床検査技師 66人
薬 剤 師	67人	0人	67.0人	作業療法士	10人		衛生検査技師 0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	7人		そ の 他 0人
助 産 師	31人	0人	31.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	711人	22人	727.8人	臨床工学技士	22人	医療社会事業従事者	2人
准看護師	51人	5人	54.6人	栄 養 士	22人	その他の技術員	30人
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	3人	事 務 職 員	112人
管理栄養士	22人	0人	22.0人	診療放射線技師	48人	そ の 他 の 職 員	80人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 9 歯科、矯正歯科及び小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	610.5人	5.1人	615.6人
1日当たり平均外来患者数	1,452.5人	63.5人	1,516.0人
1日当たり平均調剤数	外来 入院	932剤 593剤	合計 1,525剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

- 10 専任の医療に係る安全管理を行う者及び、専任の院内感染対策を行う者の配置  
 11 医療に係る安全管理を行う部門の設置  
 12 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保  
 13 医療に係る安全管理のための指針の整備  
 14 医療に係る安全管理のための委員会の開催  
 15 医療に係る安全管理のための職員研修の実施  
 16 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策  
 17 院内感染対策のための指針の策定  
 18 院内感染対策のための委員会の開催  
 19 院内感染対策のための職員研修の実施  
 20 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施  
 21 医薬品の使用に係る安全管理のための責任者の配置  
 22 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施  
 23 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施  
 24 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施  
 25 医療機器の安全使用のための責任者の配置  
 26 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施  
 27 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施  
 28 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施  
 → 別紙参照（様式第13-2）

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション（前十字靭帯損傷又は後十字靭帯損傷に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療（心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査（産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯（顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴（腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎関節症の補綴学的治療（顎関節症（顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法（神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法（歯冠部齲蝕の修復に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術（内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定（白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法（手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
CTガイド下気管支鏡検査（肺腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断（アンチトロンビン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンビンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験（消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断（頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験（消化器がん（根治度Cの胃がんを除く。）、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断（子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝部分切除術（肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性腫瘍に対する陽子線治療（固形がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術（角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
成長障害のDNA診断（特発性低身長症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術（内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術（主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
声帯内自家側頭筋膜移植術（一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に揚げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法（閉塞性動脈硬化症又はバージャー病（従来の治療法に抵抗性のもので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
ミトコンドリア病のDNA診断（高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
鏡視下肩峰下腔徐圧術（透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
神経変性疾患のDNA診断（ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術（再発翼状片、角膜上皮欠損（角膜移植によるものを含む。）、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜瘢痕、瞼球癒着（スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷瘢痕その他の重症の瘢痕性角結膜疾患を含む。）、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
重粒子線治療（固形がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術（原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断（糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛（保存治療に抵抗性のものでに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断（BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術（インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断（マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断（急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
エキシマレーザー冠動脈形成術（経皮的冠動脈形成術（エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。）による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
活性化Tリンパ球移入療法（原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術（膀胱尿管逆流症（国際分類グレードVの高度逆流症を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術（泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植（HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術（頸椎椎間板ヘルニア（画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの（後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
ケラチン病の遺伝子診断（水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャージャー病（重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血単核球移植による血管再生治療（慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャージャー病（従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるものに限る）、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術（双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例（妊娠十六週から二十六週に限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法（肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断（ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法（四肢の骨折（治療のために手術中に行われるものを除く。）のうち、観血的手術を実施したもの（開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。）に係るものに限る。）	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法（ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存（骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性（欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。）、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時（初回又は再置換術時に限る。）の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に揚げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術（難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価（骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍搔爬術後若しくは骨髄炎搔爬術後の症状に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
膀胱水圧拡張術（間質性膀胱炎に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法（歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術（人工股関節のたるみに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下直腸固定術（直腸脱に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨移動術による関節温存型再建（骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション（原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法（腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍（食道がん、胃がん又は大腸がん）、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法（がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断（EBウイルス感染症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術（尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍（精巣がんから転移したのものに限る。）又は骨盤リンパ節腫瘍（泌尿器がんから転移したのものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術（白内障に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性難聴の遺伝子診断（遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断（フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はピオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酵素欠損症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による先天性代謝異常診断（先天性代謝異常（ライソゾーム病に限る。）に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常（ライソゾーム病に限る。）が疑われる小児に係るものであって、酵素補充療法による治療が出来ないものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術（手術進行期分類Ⅰb期までの子宮体がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
RET遺伝子診断（甲状腺髄様癌に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
角膜ジストロフィの遺伝子解析（角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療（限局性の固形悪性腫瘍（頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
マイクロ波子宮内膜アブレーション（機能性及び器質性過多月経（ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。）であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査（EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に上げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助（ICD-10（統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件（平成二十一年総務省告示第百七十六号）の「(1) 疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。）においてF2（統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害）に分類される疾病及びF3（気分（感情）障害）に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者（器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術（下肢慢性静脈不全症（下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴（小臼歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（早期大腸がん（EMR（内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。）では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。）又は腺腫（EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
実物大臓器立体モデルによる手術支援（骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
無拘束型多点感圧シートセンサを用いた検査（閉塞性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる症状（習慣性がある激しいいびき、日中の傾眠等をいう。）及び所見（肥満、薬物療法に対して抵抗性を有する高血圧等をいう。）が認められる者又は中枢性睡眠時無呼吸症候群が強く疑われる慢性心不全の者に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術（頸部良性腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術（転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
 2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
カフェイン併用化学療法（骨肉腫、悪性線維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児尿路・羊水腔シャント術（プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent block (MAB) 治療（ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（胸部悪性腫瘍（従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法（腎悪性腫瘍（従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術（手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法（転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫（診断の確実なものに限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法（一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術（特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症（NIHF）例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの（妊娠二十週から三十四週未満に限る。）に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD（アナログ）直接注入療法（二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
腹腔鏡補助下肝切除術（部分切除及び外側区域切除を除く。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援（前立腺がんに係るものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた冠動脈バイパス手術（虚血性心疾患に係るものであって、一箇所を吻合するものに限る。）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に挙げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取 扱 い 患 者 数	疾 患 名	取 扱 い 患 者 数
・ベーチェット病	59人	・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	27人
・多発性硬化症	133人	・ウェゲナー肉芽腫症	5人
・重症筋無力症	160人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	2人
・全身性エリテマトーデス	1,710人	・多系統萎縮症	4人
・スモン	2人	・表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	72人	・膿疱性乾癬	9人
・サルコイドーシス	212人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	26人	・原発性胆汁性肝硬変	602人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	561人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	170人	・特発性大腿骨頭壊死症	7人
・結節性動脈周囲炎	14人	・混合性結合組織病	269人
・潰瘍性大腸炎	378人	・原発性免疫不全症候群	7人
・大動脈炎症候群	39人	・特発性間質性肺炎	8人
・ピュルガー病	4人	・網膜色素変性症	66人
・天疱瘡	11人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	68人	・原発性肺高血圧症	5人
・クローン病	39人	・神経線維腫症	166人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	46人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・パーキンソン病関連疾患	973人	・特発性慢性肺血栓栓症 (肺高血圧型)	16人
・アミロイドーシス	43人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	4人
・後縦靭帯骨化症	28人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

### 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する 部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と 開催した症例検討会の開催頻度	大学全体として年間6回（2ヶ月に1回） 各科毎として週1回程度（年間約50回）	
剖 検 の 状 況	剖検症例数 33 例	剖 検 率 12.2 %

## 1 研究費補助等の実績

No. 1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
HCV感染者の肝炎活動性を規定する宿主 要因：オステオポンチンの発現調節機構	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	千円 1,500	補 文部科学省 科学研究費 委
2型糖尿病患者のQOL、血管合併症及び長期 予後改善のための前向き研究	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委
糖尿病網膜症および加齢黄斑変性症の遺伝 子解析:PEDF遺伝子多型を中心として	粟田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
特定疾患患者の生活の質 (Quality of life , QOL) の向上に関する研究	小森 哲夫	神経内科・ 脳卒中内科	千円 46,800	補 厚生労働省 科学研究費 委
反復磁気刺激によるパーキンソン病治療の 確立	小森 哲夫	神経内科・ 脳卒中内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
リアノジン受容体を介した樹状細胞応答の 解析	成田 弥生	麻酔科	千円 1,350	補 文部科学省 科学研究費 委
胎仔小腸分離細胞の再構築過程における腸 管壁内神経細胞遊走のメカニズム	米川 浩伸	小児外科	千円 500	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ミトコンドリア呼吸鎖異常症の診断と分子病理に関する研究：小児高乳酸血症の病因解明	大竹 明	小児科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
治験の実施に関する研究[L-アルギニン]	大竹 明	小児科	千円 1,400	補 厚生労働省 科学研究費 委
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	岡田 邦之	小児科	千円 500	補 文部科学省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	千円 1,100	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチにおける炎症と動脈硬化	浅沼 ゆう	リウマチ 膠原病科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委
Th17サブセットが炎症性疾患特に膠原病において果たす役割の解析	佐藤 浩二郎	リウマチ 膠原病科	千円 7,300	補 文部科学省 科学研究費 委
ホモ接合指紋法によるCOPD感受性遺伝子の検索	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 3,000	補 文部科学省 科学研究費 委
高齢者呼吸器疾患の発症・制御に関する遺伝子・蛋白系の解明と治療応用	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 4,000	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 1 研究費補助等の実績

No. 3

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
薬剤性肺障害の発現状況の国際比較に関する研究	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
びまん性肺疾患に関する調査研究	萩原 弘一	呼吸器内科	千円 800	補 厚生労働省 科学研究費 委
成人を対象とした気管支喘息患者に対する効果的な保健指導の実践に関する調査研究	永田 真	呼吸器内科	千円 600	補 環境保全再生 機構 委
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバンド療法 の臨床研究	永田 真	呼吸器内科	千円 2,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
成人喘息の寛解を目指した治療薬の減量・ 中止に関する研究	永田 真	呼吸器内科	千円 1,500	補 厚生労働省 科学研究費 委
ユビキタス・インターネットを活用したア レルギー疾患の自己管理および生活環境改 善支援システム、遠隔教育システム、患者 登録・長期観察システムに関する研究	永田 真	呼吸器内科	千円 700	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性喘息の気道炎症病態の解析	永田 真	呼吸器内科	千円 1,300	補 文部科学省 科学研究費 委
関節リウマチにおける間質性肺病変発症に 関わる遺伝子の探索	中込 一之	呼吸器内科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
全ゲノムSNP解析を用いた非小細胞肺癌関連遺伝子の同定	田中 知 明	呼吸器内科	千円 1,300	補 文部科学省 科学研究費 委
前置癒着胎盤の病態解明と予知について	板倉 敦 夫	産婦人科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
生殖補助医療の医療技術の標準化、安全性の確保と生殖補助医療により生まれた児の長期予後の検証に関する研究	石原 理	産婦人科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
生殖腺・配偶子保存を中心とした悪性腫瘍患者の妊孕性温存	石原 理	産婦人科	千円 1,500	補 国立成育医療 センター研究 所 委
脱落膜化異常が関与する疾患の病態解明とその治療について	梶原 健	産婦人科	千円 1,100	補 文部科学省 科学研究費 委
骨代謝における神経制御機構の解明：転写因子Pax6を介したシグナル伝達について	加藤 直 樹	整形外科 ・脊椎外科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の形成再建手技の標準化	中塚 貴 志	形成外科 ・美容外科	千円 19,672	補 厚生労働省 科学研究費 委
p53欠損マウスを用いた再生軟骨周囲の軟骨膜様組織における再生誘導機構の解明	中塚 貴 志	形成外科 ・美容外科	千円 1,700	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

No. 5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
褥瘡の予防と治療に関する研究	市岡 滋	形成外科 ・美容外科	千円 270	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性潰瘍に対する酸素環境設計と新しい バイオマテリアルによる血管新生療法の開 発	市岡 滋	形成外科 ・美容外科	千円 1,400	補 文部科学省 科学研究費 委
脳血管障害患者におけるインスリン抵抗性 の発現機序に関する検討	間嶋 満	リハビリ テーション科	千円 1,000	補 文部科学省 科学研究費 委
運動療法がメタボリック症候群の血管内皮 ・単球・血小板機能と動脈硬化に及ぼす影 響	倉林 均	リハビリ テーション科	千円 1,900	補 文部科学省 科学研究費 委
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の 標準化に関する研究	中村 晃一郎	皮膚科	千円 2,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	倉持 朗	皮膚科	千円 1,000	補 厚生労働省 科学研究費 委
HUMARA assayおよび免疫染色を用いた咀 嚼筋腱膜過形成症の病態解明	依田 哲也	歯科・口腔外科	千円 700	補 文部科学省 科学研究費 委
骨細胞分化および細胞間ネットワーク制御 におけるsemaphorinの関与の検討	佐藤 毅	歯科・口腔外科	千円 900	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第 11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

No. 6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アフト病態解明に向けた糖質コルチコイド変動とrst細胞免疫応答能の解析	小林明男	歯科・口腔外科	千円 800	補 文部科学省 科学研究費 委

計 1  
合計 41

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
透析会誌 41;251-254, 2008	血液透析導入患者における患者背景と貧血治療の実態	別所正美	血液内科
Int J Hematol 87;195-202, 2008	Clinical features of adult acute leukemia with 11q23 abnormalities in Japan: a co-operative multicenter study.	別所正美	血液内科
Eur J Haematol 82;398-403, 2009	A molecular analysis of biclonal follicular lymphoma: further evidence for bone marrow origin and clonal selection.	中村裕一	血液内科
Cancer Genet Cytogenet 182;144-149, 2008	The GAS5 (growth arrest-specific transcript 5) gene fuses to the BCL6 as a result of t((1;3)(q25;q27) translocation in a patient with B-cell non-Hodgkin's lymphoma.	中村裕一	血液内科
臨床血液 49(9);947, 2008	Diffuse large B-cell lymphoma症例からの t(14;18)(q32;q21)、t(8;9)(q24;p13) を有する細胞株の樹立	中村裕一	血液内科
Cancer Research 68;6978-6986, 2008	Nonsteroidal anti-inflammatory drugs suppress glioma via 15-hydroxyprostaglandin dehydrogenase.	脇本直樹	血液内科
Cancer Science 99;1793-1797, 2008	Cucurbitacin B has a potent antiproliferative effect on breast cancer cells in vitro and in vivo.	脇本直樹	血液内科
International Journal of Cancer 123;1364-1375, 2008	Cucurbitacin B markedly inhibits growth and rapidly affects the cytoskeleton in glioblastoma multiforme.	脇本直樹	血液内科
Haematologica 93;1712-1717, 2008	Diagnosis and classification of myelodysplastic syndrome: International Working Group on Morphology of myelodysplastic syndrome (IWGM-MDS) consensus proposals for the definition and enumeration of myeloblasts and ring sideroblasts.	陣内逸郎	血液内科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Br J Haematol 143;503-510, 2008	Prospective monitoring of BCR-ABL1 transcript levels in patients with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukaemia undergoing imatinib-combined chemotherapy.	陣内逸郎	血液内科
Int J Hematol 88;551-564, 2008	Adhesion-dependent growth of primary adult T cell leukemia cells with down-regulation of HTLV-I p40Tax protein: a novel in vitro model of the growth of acute ATL cells.	陣内逸郎	血液内科
Hepatology Res 38;646-657, 2008	Fulminant hepatitis and late onset hepatic failure in Japan. Summary of 698 patients between 1998 and 2003 analyzed by the Annual Nationwide Survey.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
Hepatology Res 38;970-979, 2008	Re-evaluation of the Guideline published by the Acute Liver Failure Study Group of Japan in 1996 to determine the indications of liver transplantation in patients with fulminant hepatitis.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
肝胆脾 57;1155-1167, 2008	肝癌QOL調査票(厚労省班会議)	中山伸朗	消化器内科 ・肝臓内科
Frontiers in Gastroenterology 14;54-63, 2009	Data Analysis: データ解説	中山伸朗	消化器内科 ・肝臓内科
消化器と免疫 44;105-107, 2008	C型慢性肝炎の活動性を規定する宿主要因としての Osteopontin Promoter SNPs	菅原通子	消化器内科 ・肝臓内科
Hypertens Res 31;657-664, 2008	Microalbuminuria reduction with telmisartana in normotensive and hypertensive Japanese patients with type 2 diabetes: a post-hoc analysis of the incipient to overt: angiotensin II blocker, telmisartan, investigation on type 2 diabetic nephropathy (INNOVATION) study.	片山茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Hypertens Res 31;1007-1013, 2008	Antioxidant Treatment with alpha-tocopherol improves erectile function in hypertensive rats.	片山茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Res 31;1499-1506, 2008	Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitor Achieved a Target Blood Pressure of <130/80mmHg; The Azelnidipine and Temocapril in Hypertensive Patients with Type 2 Diabetes (ATTEST) Study.	片山 茂 裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Biochem Biophys Res Commun 365;433-438, 2008	SH3 domain of the phosphatidylinositol 3-kinase regulatory subunit is responsible for the formation of a sequestration complex with insulin receptor substrate-1.	犬飼 浩 一	内分泌内科 ・糖尿病内科
J Autoimmun 30;207-211, 2008	Evidence for association between vitamin D receptor Bsm1 polymorphism and type 1 diabetes in Japanese.	栗田 卓 也	内分泌内科 ・糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab 94;231-235, 2009	Association of type 1 diabetes with two Loci on 12q13 and 16p13 and the influence coexisting thyroid autoimmunity in Japanese.	栗田 卓 也	内分泌内科 ・糖尿病内科
J Clin Endocrinol Metab. 94;947-952, 2009	Genetic association between the interleukin-2 receptor-alpha gene and mode of onset of type 1 diabetes in the Japanese population.	栗田 卓 也	内分泌内科 ・糖尿病内科
PPAR Res. 2008;316306, 2008	Statins activate human PPARalpha promoter and increase PPARalpha mRNA expression and activation in HepG2 cells.	井上 郁 夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
PPAR Res. 2008;348610, 2008	Cryptochrome and Period Proteins Are Regulated by the CLOCK/BMAL1 Gene: Crosstalk between the PPARs/RXRalpha-Regulated and CLOCK/BMAL1-Regulated Systems.	井上 郁 夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
Recent Pat Cardiovasc Drug Discov 4;31-36, 2009	Rapid and simple profiling of lipoproteins by polyacrylamide-gel disc electrophoresis to determine the heterogeneity of low-density lipoproteins (LDLs) including small, dense LDL.	井上 郁 夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
J Atheroscler Thromb 16;63-66, 2009	Treatment with glimepiride, but not mitiglinide and short-acting insulin, resists body weight and abdominal fat reduction under dietary energy-restriction.	井上 郁 夫	内分泌内科 ・糖尿病内科

## 計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Metabolism 57;1350-1354, 2008	Involvement of low adiponectin levels in impaired glucose tolerance.	犬飼浩一	内分泌内科 ・糖尿病内科
Diabetes 58;61-70, 2009	Adiponectin upregulates ferritin heavy chain in skeletal muscle cells.	犬飼浩一	内分泌内科 ・糖尿病内科
糖尿病と妊娠 8;126-130, 2008	PreprogrammableCSIIの導入により分娩に至った1型糖尿病の3例	山下富都	内分泌内科 ・糖尿病内科
脳循環代謝 19;28-35, 2008	生体蛍光顕微鏡を用いたマウスくも膜下出血急性期における脳微小血管内血小板動態の観察	荒木信夫	神経内科 ・脳卒中内科
神経内科 69;295-300, 2008	ドイツ語圏における片頭痛研究の祖 Emil Heinrich du Bois-Reymond (1818-96)	荒木信夫	神経内科 ・脳卒中内科
『神経内科』 69;394-398, 2009	Edward Flatau (1868-1932) と ドイツ語圏の片頭痛研究 1. 経歴と業績	荒木信夫	神経内科 ・脳卒中内科
Muscle Nerve 37;426-430, 2008	Dissociated small hand muscle atrophy in amyotrophic lateral sclerosis: Frequency, extent, and specificity.	小森哲夫	神経内科 ・脳卒中内科
難病と在宅ケア 14;13-16, 2008	ALSへの非侵襲的陽圧呼吸療法の適応	小森哲夫	神経内科 ・脳卒中内科
神経治療学 25;655-661, 2008	神経難病呼吸ケアの実践	小森哲夫	神経内科 ・脳卒中内科
Muscle Nerve 39;63-70, 2009	Utility of trapezius EMG for diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis.	小森哲夫	神経内科 ・脳卒中内科
神経内科 68;591-597, 2008	末梢神経障害における骨格筋MRI画像	山元敏正	神経内科 ・脳卒中内科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
発汗学 15;80-82, 2008	分節型発汗異常とヘルペス感染	中里良彦	神経内科 ・脳卒中内科
脳と神経 61;77-81, 2009	長期にわたって単純部分発作として治療され、経過中に小脳失調をきたした若年ミオクロニーてんかんの1例	溝井令一	神経内科 ・脳卒中内科
Muscle Nerve 39;333-342, 2009	Clinical and genetic analysis of lipid storage myopathies.	大熊彩	神経内科 ・脳卒中内科
Neuromuscular disorder 19;212-216, 2009	ETFDH mutations, CoQ10 levels, and respiratory chain activities in patients with riboflavin-responsive multiple acyl-CoA dehydrogenase deficiency.	大熊彩	神経内科 ・脳卒中内科
神経治療学 26;75-80, 2009	階段を下りる時に限定して右下肢に誘発されるジスキネジアに抗てんかん薬が著効した1例	住田直子	神経内科 ・脳卒中内科
神経内科 69;158-161, 2008	両側被殻に微小出血を呈した糖尿病性 hemiballismの1例 -MRI T2*強調画像とMRSによる検討-	加藤裕司	神経内科 ・脳卒中内科
神経治療学 25;449-453, 2008	鍼治療が著効した視床痛の1例	加藤裕司	神経内科 ・脳卒中内科
Dig Surg 26;9-15, 2009	Extended left hepatic lobectomy for hepatic hilar bile duct cancer: a novel surgical procedure in which the right hepatic duct is transected before the hepatoduodenal ligament is skeletonized.	鳥井孝宏	消化器一般外科
日本消化器外科学会雑誌 42;139, 2009	生体吸収性ポリマーによる胃壁の再生	鳥井孝宏	消化器一般外科
Neuro Oncol 10;725-733, 2008	Role of surgery for optic pathway/hypothalamic astrocytomas in children.	藤巻高光	脳神経外科
Neurol Res 30;979-984, 2008	L-PDMP improves glucosylceramide synthesis and behavior in rats with focal ischemia.	藤巻高光	脳神経外科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurol Surg 37;47-50, 2009	注射器から剥離したインク塊による脳血管撮影時 血栓性合併症の可能性について	根木 宏 明	脳神経外科
J Neuroendovascular Ther 2;107-112, 2008	脳血管内治療と感染症	根木 宏 明	脳神経外科
Eur J Neurosci. 29;833-836, 2009	Suppression of ipsilateral motor cortex facilitates motor skill learning	小 林 正 人	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo). 48;259-261, 2008	Posterior inferior cerebellar artery aneurysm associated with persistent primitive hypoglossal artery.	小 林 正 人	脳神経外科
Neurol Res 30;239-243, 2008	Source analysis of the magnetic field evoked during self-paced finger movements.	小 林 正 人	脳神経外科
Pediatr Surg Int 24;1087-1094, 2008	The proton pump inhibitor inhibits cell growth and induces apoptosis in human hepatoblastoma.	森 村 敏 哉	小児外科
J Pediatr Surg 43;947-950, 2008	Reconstruction of a pelvic floor defect using a pedicled tensor fascia lata flap: a new technique to prevent radiation injury for pediatric patients with advanced pelvic tumors.	大 野 康 治	小児外科
Am J Kidney Dis 52;501-506, 2008	Effect of angiotensin receptor blockers on cardiovascular events in patients undergoing hemodialysis: an open-label randomized controlled trial.	鈴 木 洋 通	腎臓内科
Clin Exp Nephrol. 12;102-109, 2008	Short- and long-term prognosis of blood pressure and kidney disease in women with a past history of preeclampsia.	鈴 木 洋 通	腎臓内科
糖尿病診療マスター 6;605-609, 2008	【糖尿病QOLのエビデンスとそれを高める工夫】 腎症・人工透析とQOL	鈴 木 洋 通	腎臓内科

計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Am Soc Nephrol 19;933-942, 2008	Poly (ADP-ribose) polymerase-1 enhances transcription of the profibrotic CCN2 gene.	岡田浩一	腎臓内科
Clin Exp Hypertens 30;173-181, 2008	Arterial wave reflection is elevated in evening hemodialysis patients.	竹中恒夫	腎臓内科
J Atheroscler Thromb 15;339-344, 2008	Cardio-ankle vascular index to screen cardiovascular diseases in patients with end-stage renal diseases.	竹中恒夫	腎臓内科
NDT Plus 2;263-264, 2009	End-stage renal disease (ESRD) contributes to the increasing prevalence of herpes zoster.	佐藤貴彦	腎臓内科
臨床と研究 85;1175-1180, 2008	抗真菌薬の併用が有効であった半月体性糸球体腎炎に発症した慢性壊死性肺アスペルギルス症の一例	井上勉	腎臓内科
日本内科学会雑誌 97;3049-3051, 2008	セロトニン症候群を生じた腹膜透析患者の1例	井上勉	腎臓内科
Adv Perit Dial 24;65-68, 2008	Risk factors and cause of removal of peritoneal dialysis catheter in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis.	野平由香	腎臓内科
Adv Perit Dial. 24;60-64, 2008	Close association of vascular and valvular calcification and prognosis of patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis.	元志宏	腎臓内科
Kidney Int 73;1017-1023, 2008	Mapping quantitative trait loci for proteinuria-induced renal collagen deposition.	加藤信孝	腎臓内科
Diabetes 57;1034-1042, 2008	Insulin mutation screening in 1044 patients with diabetes: Mutations in the INS gene are a common cause of neonatal diabetes but a rare cause of diabetes diagnosed in childhood or adulthood.	雨宮伸	小児科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
糖尿病 51;427-434, 2008	小児2型糖尿病に対するメトホルミン単独療法	雨宮 伸	小児科
臨床化学 37;393-409, 2008	HbA1c測定におけるIFFC値併記に関する指針 (Ver. 2.0:2008-10-06)	雨宮 伸	小児科
Clin Pediatr Endocrinol 17;39-47, 2008	Changes in glycemic control and quality of life in pediatric type 1 diabetics with continuous subcutaneous insulin infusion of insulin aspart following multiple daily injection therapy.	雨宮 伸	小児科
Pediatric Diabetes 9;281-290, 2008	Analysis of birth weight at birth and at diagnosis of childhood-onset type 2 diabetes mellitus in Japan.	雨宮 伸	小児科
医学と薬学 60;299-304, 2008	1型糖尿病の診断におけるインスリン抗体キット「ヤマサ」の有用性	雨宮 伸	小児科
小児保健研究 68;53-57, 2009	1型糖尿病患者の日本食摂取時におけるCarbohydrate Counting法(500法)の適応の検討	雨宮 伸	小児科
臨床化学 38;163-176, 2009	HbA1c測定のためのJSCC/JDS基準操作手順書 (Ver. 2.8:2009-03-06)	雨宮 伸	小児科
臨床化学 38;152-162, 2009	HbA1c測定のためのレファレンスラボラトリーおよび糖尿病関連指標標準化遺児管理システムのための運用指針(Ver. 2.0:2009-02-17)	雨宮 伸	小児科
Clin Genet 73;496-501, 2008	Mutations of carnitine palmitoyltransferase II (CPT II) in Japanese patients with CPT II deficiency.	大竹 明	小児科
日本マス・スクリーニング学会誌 18;43-49, 2008	カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼII酵素欠損症17家系20症例の臨床像について	大竹 明	小児科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Clin Endocrinol Metab 94;314-319, 2009	OTX2 loss of function mutation causes anophthalmia and combined pituitary hormone deficiency with a small anterior and ectopic posterior pituitary.	大竹 明	小児科
アレルギー 57;536-542, 2008	テオフィリン投与中の痙攣症例に関する臨床的検討(第III報) 後遺症・死亡例からみたテオフィリンの安全性に関する検討	小田嶋 安平	小児科
Arch Drug Info 1;14-22, 2008	Effects of C-reactive protein and homocysteine on cytokine production: modulation by pravastatin.	浅沼 ゆう	リウマチ ・膠原病科
Allergol Int 57;109-114, 2008	Th17 cells and rheumatoid arthritis—from the standpoint of osteoclast differentiation—.	佐藤 浩二郎	リウマチ ・膠原病科
Mod Rheumatol 18 (6) ;615-618, 2008	Vasculo-Behçet's disease with non-traumatic subcapsular hematoma of the kidney and aneurysmal dilatations of the celiac and superior mesenteric arteries.	横田 和浩	リウマチ ・膠原病科
J Clin Oncol 27;1394-1400, 2009	First-line gefitinib for patients with advanced non-small-cell lung cancer harboring epidermal growth factor receptor mutations without indication for chemotherapy.	萩原 弘一	呼吸器内科
Oncogene 27;6581-6589, 2008	Identification of IGFBP-6 as an effector of the tumor-suppressor activity of SEMA3B.	萩原 弘一	呼吸器内科
Int Arch Allerg Immunol 146 (suppl1) ; 22-27, 2008	Inhibitory effect of budesonide alone and in combination with formoterol on IL-5 and RANTES production from mononuclear cells.	柚 知行	呼吸器内科
Euro Respir J 32;1540-1547, 2008	Interferon- $\beta$ auguments eosinophil adhesion-inducing activity of endothelial cells.	永田 真	呼吸器内科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。  
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。  
3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Thorax 64;44-49, 2009	Pravastatin attenuates allergic airway inflammation by suppressing antigen-sensitization, IL-17 production, and antigen-presentation in the lung	中 込 一 之	呼吸器内科
臨床免疫・アレルギー科 49;452-457, 2008	好酸球による免疫応答抑制の可能性	中 込 一 之	呼吸器内科
臨床免疫・アレルギー科 50;458-465, 2008	好酸球によるT細胞機能制御の可能性	中 込 一 之	呼吸器内科
JOHNS 24;1701-1706, 2008	かぜの治療 咳嗽への対応	中 込 一 之	呼吸器内科
薬事 50;2087-2091, 2008	アナフィラキシー	中 込 一 之	呼吸器内科
アレルギー・免疫 16;190-196, 2009	花粉症と喘息の関連性とその治療	中 込 一 之	呼吸器内科
泌尿器科総記 54;537-542, 2008	葉酸は神経管閉鎖障害の発生リスクを低減する妊婦の認知率・葉酸摂取率(2006年)	石 原 理	産婦人科
Endocrinology 149;4442-4474, 2008	The androgen and progesterone receptors regulate distinct gene networks and cellular functions in decidualizing endometrium	梶 原 健	産婦人科
日本女性骨盤底医学会誌 5;72-75;2008	TVM(Tnsion-free vaginal mesh)手術症例の短期予後に関する検討	西 林 学	産婦人科
Ultrasound in Obstetrics and Gynecology 32;301-302, 2008	Bladder Neck Evaluation by Perineal Ultrasound before and after Polypropylene Mesh Surgery for Pelvic Organ Prolapse.	西 林 学	産婦人科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Immunol 38;1012-1023, 2008	Distinct subsets of human invariant NKT cells differentially regulate T helper responses via dendritic cells.	鈴木元晴	産婦人科
Pathol Int 58;268-274, 2008	Pathological evaluation of uterine leiomyomas treated with gonadotropin-releasing hormone agonist (GnRH-a) therapy: role of mast cells and a possible mechanism of GnRH-a resistance in leiomyomas.	中山真人	産婦人科
Transfusion 48;1156-1163, 2008	Noninvasive fetal RhD genotyping by maternal plasma with capillary electrophoresis.	木村真智子	産婦人科
精神科診断学 1;58-66, 2008	「うつ病」および「うつ」に伴う混乱と用語整理の必要性について	太田敏男	精神神経科 ・心療内科
精神神経学雑誌 110;829-834, 2008	「うつ病」はどの範囲を指すのか —「うつ」と「うつ病」をめぐる混乱—	太田敏男	精神神経科 ・心療内科
精神科治療学 24;119-123, 2009	DSM-IIIの功罪の視点から「うつ病」の切り分けを再考する	太田敏男	精神神経科 ・心療内科
Pharmacological Research 57;435-444, 2008	Pharmacological characterization of alpha2D-adrenergic receptor-mediated [35S] GTPgammaS binding in rat cerebral cortical membranes.	小田垣雄二	精神神経科 ・心療内科
Psychiatry Clin Neurosci 63;65-72, 2009	Neuropathy is associated with depression independently of health-related quality of life in Japanese patients with diabetes.	吉田寿美子	精神神経科 ・心療内科
脳と精神の医学 19;117-125, 2008	アルファベット文字弁別課題進行中のヒト頭皮上脳波において、提示文字種の 'familiarity' がα帯域活動の事象関連変動に及ぼす影響について	井上哲雄	精神神経科 ・心療内科
日整会誌 82;296, 2008	Magnetic resonance imaging (MRI) でみられる bone bruiseは関節液産生と強く相関し、変形性膝関節症の進行に関与する	織田弘美	整形外科 ・脊椎外科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Nuclear Med Com 29;770-774, 2008	Quantitative regional blood flow measurements in exercising leg skeletal muscle based on <sup>99m</sup> Tc-pertechnetate clearance.	高橋 啓介	整形外科 ・脊椎外科
整形外科 59;643-649, 2008	外側半月の後外側副損傷に対するall-inside半月縫合システムによる半月修復	立花 陽明	整形外科 ・脊椎外科
Osteoporosis 16;201-206, 2008	性同一性障害者の骨代謝変化と治療効果に関する検討	宮島 剛	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 34;783-787, 2008	股関節CT像による有限要素解析用モデルの作成 —股関節手術の術前シミュレーション—	宮島 剛	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 34;175-180, 2008	Acetabular Retroversion症例におけるRAO術後長期成績	田中 啓仁	整形外科 ・脊椎外科
日本形成外科学会誌 28;231-239, 2008	クリアーソフトティッシュ画像を用いた片側口唇口蓋裂患者における鼻軟骨形態の評価	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
Ann Plast Surg 62;54-58, 2009	Functional outcomes and reevaluation of esophageal speech after free jejunal transfer in two hundred thirty-six cases.	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
Wound Repair Regen 16;450-465, 2008	A technique to visualize wound bed microcirculation and the acute effect of negative pressure.	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
形成外科 51;699-705, 2008	Gluteal island flap を用いた坐骨部褥瘡の再建	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 43;137-141, 2009	Wavy line closure for revision of abdominal scars with suture marks in children.	時岡 一幸	形成外科 ・美容外科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Stroke Cerebrovasc Dis 17;175-180, 2008	Insulin resistance in patients with stroke is related to visceral fat obesity and adipocytokines.	菱 沼 亜紀子	リハビリテーション科
JOHNS 24;1171-1175, 2008	顔面骨骨折	善 浪 弘 善	耳鼻咽喉科
ENTON I 95;11-16, 2008	咽喉頭異常感症と局所炎症	中 嶋 正 人	耳鼻咽喉科
JOHNS 25;517-520, 2009	症例をどうみるか 鼻腔solitary fibrous tumorの1症例	中 嶋 正 人	耳鼻咽喉科
日本口腔・咽頭科学会 20;369-375, 2008	21年間の咽頭異物症の臨床像の検討	和 田 伊佐雄	耳鼻咽喉科
ENTON I 96;36-42, 2008	外耳道異物症の臨床像の特徴について	和 田 伊佐雄	耳鼻咽喉科
Equilibrium Res 67;141-145, 2008	前庭神経炎の臨床像と経過	水 野 正 浩	神経耳科
Equilibrium Res 67;286-293, 2008	聴平衡覚障害をきたした再発性多発性軟骨炎の2症例	伊 藤 彰 紀	神経耳科
Exp Eye Res 86;512-518, 2009	Oxygen saturation levels in the juxta-papillary retina in eyes with glaucoma.	米 谷 新	眼科
J Ocul Biol Dis Infor 1;30-36, 2008	An empty E1-, E3-, E4- adenovirus vector protects photoreceptors from light-induced degeneration.	森 圭 介	眼科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Invest Ophthalmol Vis Sci 49;2606-2612, 2008	Demonstration by Redox Fluorometry that Sulfuraphane Protects Retinal Pigment Epithelial Cells against Oxidative Stress.	森 圭 介	眼科
臨床眼科 63;511-514, 2009	光線力学療法でのポリープ状脈絡膜血管症の異常 血管網の変化.	森 圭 介	眼科
臨床眼科 62;1677-1682, 2008	眼付属器の悪性リンパ腫の治療結果	土 橋 尊 志	眼科
Mon Book Derma 149;59-64, 2009	血管腫と出血性病変のダーモスコープ診断のコツ	土 田 哲 也	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 118;2826-2847, 2008	血管腫・脈管形成異常、出血性病変のダーモスコピ ー	倉 持 朗	皮膚科
皮膚科の臨床 50;1442-1464, 2008	炎症性疾患に対しても、ダーモスコープは有用です か？	倉 持 朗	皮膚科
皮膚科の臨床 50;1466-1469, 2008	円板状エリテマトーデス、扁平苔癬、尋常性乾癬の 診断にダーモスコープは有用ですか？	倉 持 朗	皮膚科
皮膚科の臨床 51;227-230, 2009	顕著なT細胞浸潤を伴った皮膚原発B細胞リンパ 腫の1例	倉 持 朗	皮膚科
皮膚科の臨床 51;335-342, 2009	或る”かたちの病”をめぐる紙葉	倉 持 朗	皮膚科
皮膚科の臨床 51;403-406, 2009	巨大なAneurysmal Fibrous Histiocytomaの1例	倉 持 朗	皮膚科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成20年度総括・分担研究報告書 ;53-54, 2009	Neurofibromatosis1の Nodular plexiform neurofibromaをめぐって	倉持 朗	皮膚科
厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 平成20年度総括・分担研究報告書 ;87-93, 2009	Tuberous sclerosis complex (TSC) のFacial angio fibromaに対する剥削術・雪状炭酸圧抵併用療法	倉持 朗	皮膚科
Mon Book Derma 140;104-108, 2008	皮膚疾患薬物療法update タクロリムス軟膏	中村 晃一郎	皮膚科
J Dermatol. 35;546-547, 2008	Serum thymic stromal lymphopoietin levels are not elevated in patients with atopic dermatitis.	中村 晃一郎	皮膚科
J Dermatol Sci. 53 (2) ;162-163, 2009	Interferon-18 gene polymorphism -137 G/C is associated with susceptibility to psoriasis vulgaris but not with atopic dermatitis in Japanese patients.	中村 晃一郎	皮膚科
J Dermatol Sci 53 (2) ;163-165, 2009	IL-17F single nucleotide polymorphism is not associated with psoriasis vulgaris or atopic dermatitis in the Japanese population.	中村 晃一郎	皮膚科
皮膚科の臨床 50;1143-1148, 2008	20歳代に生じた熱傷癩痕癌の1例—当科症例の検討を加えて—	今井 聖	皮膚科
皮膚科の臨床 50;1482-1489, 2008	疣贅, 軟属腫, 白癬の診断に役立てることはできますか?	瀧口 光次郎	皮膚科

計 8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚病診療 30;523-526, 2008	骨髄線維症患者にG-CSFを投与中生じた neutrophilic dermatosis	難波純英	皮膚科
皮膚科の臨床 50;1089-1091, 2008	Pencil-Core Granulomaの1例	難波純英	皮膚科
皮膚科の臨床 50;1350-1353, 2008	ダ-モスピ-の実践	難波純英	皮膚科
Int J Urol 15;688-693, 2008	Influence of hospital and surgeon volumes on operative time, blood loss and perioperative complications in radical nephrectomy.	矢内原 仁	泌尿器科
Japanese Journal of Endourology and ESWL 21;245-250, 2008	【院内感染への警鐘】膀胱鏡の洗浄・消毒・滅菌に よる院内感染リスク】泌尿器科外来における膀胱 鏡の洗浄・消毒・滅菌処理に関するアンケート調査	矢内原 仁	泌尿器科
Biomedical Research 29;321-330, 2008	Suppressive action of pituitary adenylate cyclase activating polypeptide (PACAP) on proliferation of immature mouse Leydig cell line TM3 cells.	矢内原 仁	泌尿器科
日本レーザー医学会誌 29;408-413, 2009	【泌尿器科におけるレーザー治療】980nm半導体レ ーザーを用いたレーザー前立腺蒸散術の臨床使用 経験	矢内原 仁	泌尿器科
腫瘍内科 2;446-453, 2008	MammaPrint	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
Breast cancer 16;88-92, 2009	Successful treatment of leptomeningeal metastases from breast cancer using the combination of trastuzumab and capecitabine : a case report.	大崎昭彦	乳腺腫瘍科
Asian Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 21;in press, 2009	Effects of transforming growth factor (TGF)- $\beta$ 1 in combination with fibroblast growth factor (FGF)-2 and insulin-like growth factor (IGF)-1 on chondrocytes proliferation culture for the cartilage regenerative medicine.	依田哲也	歯科・ 口腔外科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Biol Chem 284;7149-7156, 2008	Constitutively activated ALK2 and increased smad1/5 cooperatively induce BMP signaling in fibrodysplasia ossificans progressiva.	依田 哲也	歯科・ 口腔外科
日本口腔粘膜学会誌 15;15-21, 2009	健常者における口腔粘膜湿度の時間的変動に関する実験的検討.	今井 謙一郎	歯科・ 口腔外科
Molecular and Cellular Endocrinology 300;32-36, 2008	Characterization of mice deficient in Melanocortin 2 receptor on a B6/ Balbc mix background.	佐藤 毅	歯科・ 口腔外科
Biochem Biophys Res Commun. 377;126-130, 2008	Nicotine induces cell proliferation in association with cyclin D1 up-regulation and inhibits cell differentiation in association with p53 regulation in a murine pre-osteoblastic cell line.	佐藤 毅	歯科・ 口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 21;163-168, 2008	歯科口腔外科の時間外受診患者に関する統計学的検討	中本 紀道	歯科・ 口腔外科
Biochem Biophys Res Commun. 377;905-909, 2008	A unique mutation of ALK2, G356D, found in a patient with fibrodysplasia ossificans progressiva is a moderately activated BMP type I receptor.	古株 彰一郎	歯科・ 口腔外科
J Dermatol 35;238-241, 2008	Extravascular papillary endothelial hyperplasia of the palm masquerading as an angiosarcoma.	新井 栄一	病理学
Clinical Neuropathology 27;118-128, 2008	Olig2 and CD99 are useful negative markers for the diagnosis of brain tumors.	廣瀬 隆則	病理学
Neuropathology 28;249-257, 2008	Glial cytoplasmic inclusions and tissue injury in multiple system atrophy: A quantitative study in white matter (olivopontocerebellar system) and gray matter (nigrostriatal system) .	廣瀬 隆則	病理学

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Ann Diag Pathol 12;249-251, 2008	Lymphoglandular bodies in malignant tumors: with special reference to histologic specimens.	茅野 秀一	病理学
法医学の実際と研究 51;163-168, 2008	神経節膠腫 (ganglioglioma) のみられた2突然死 例	廣瀬 隆則	病理学
Int J Hematol. 87 (4) ;339-350, 2008	Ex vivo large-scale generation of human red blood cells from cord blood CD34+ cells by co-culturing with macrophages.	池淵 研二	輸血・ 細胞移植部
医学検査 57;1350-1353, 2008	化学発光法を用いたHBs抗原測定試薬の比較評価	森吉 美穂	中央検査部
医学検査 58;161-169, 2009	「エクルーシス試薬プロラクチンIII」の評価	森吉 美穂	中央検査部

計 5  
合計 170

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。
- 3 雑誌名には、Vol、頁、発表年を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 片山 茂 裕			
管理担当者氏名	医務部長 薬剤部長 利用者相談室長	奥富 篁幸 江草 利昭 斉藤 喜博	総務部長 医療安全対策室長	茂木 明 金澤 實

		保 管 場 所	分 類 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 処方せん、手術記録、看護記録、 検査所見記録、エックス線写真、 紹介状、退院した患者に係る入院 期間中の診療経過の要約及び入院 診療計画書		診療情報管理室  医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及びCR化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課	/
	高度の医療の提供の実績	医務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部	
	高度の医療の研修の実績	医務部	
	閲覧実績	医務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	確保規 則の第 9 条 の 2 3 及び 第 1 条の 1 1 各号 に掲 げる 体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者相談室	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室	
		従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保 管 場 所	分 類 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の況	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEサービス部	/
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサービス部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 総務部長 茂木 明 薬剤部長 江草 利昭
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 2 件	
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	44.3%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算 出 根 拠	A：紹介患者の数		13,785 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,637 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,184 人
	D：初診患者の数		44,614 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

## 規則第 9 条の 2 3 及び第 1 1 条各号に掲げる体制の確保

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1) 名・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1) 名・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<p>・所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 9 ) 名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項</li> <li>2. 事故発生時の対応状況についての確認</li> <li>3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動</li> <li>4. 医療安全対策の企画，立案，実施，評価，記録</li> <li>5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整</li> <li>6. 医療安全に関連する委員会の議事録，資料の作成ならびに保存</li> <li>7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認</li> <li>8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認</li> </ol>	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<p>指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。</li> <li>2. 診療基本マニュアル第9版：平成18年4月1日一刷（平成10年5月6日，初版一刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、机上版のほかマニュアルの要点をまとめたポケット版がある。机上版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は、「診療の基本姿勢」「正しい保険診療」「医療安全の基本」「医療安全対策；総論」「医療安全対策：各論」「問題発生時等への対応」の六章から構成されている。内容は、定期開催（月2回）される診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。</li> <li>3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準，手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっている。マニュアル集の主な収録内容は次の通りである。診療基本マニュアル机上版，消毒薬使用指針，麻薬管理マニュアル，向精神薬管理マニュアル，褥瘡対策マニュアル，感染性廃棄物取扱手順書，医療ガス保守点検指針，指定施設等不在者投票処理要領，輸血の手順，</li> <li>4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル - 全5編 - (情報システム室)，放射線科診療安全マニュアル (中央放射線部)，薬剤業務手順書 (薬剤部)，製剤室業務マニュアル (薬剤部)，看護基準・手順 (看護部)，診療記録等の開示実施マニュアル (医療情報提供委員会)，災害対策マニュアル (施設部)，血液浄化マニュアル (血液浄化部)，医療機器安全管理指針 (中央機材室・MEサービス部)，学校法人埼玉医科大学規程集</li> </ol>	

⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回																																																
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：大学病院における医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。本委員会は病院長を委員長とし、規則により設置された下部専門小委員会において「ヒヤリ・ハット事例」、「アクシデント事例」の検討し、再発防止策等の決定を担っている。本委員会で検討された事項は、大学病院診療科科長会議において報告、審議される。</p>																																																	
⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 11 回																																																
<p>研修の主な内容：</p> <p>表の通り</p> <table border="1" data-bbox="201 745 1402 1249"> <thead> <tr> <th>研修名称</th> <th>開催期日</th> <th>研修の目的・主な内容</th> <th>参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マニュアル講習会</td> <td>4/3</td> <td>医療安全の基本的な考え方</td> <td>155</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 1</td> <td>6/20</td> <td>病院の安全と 5S 活動</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 2</td> <td>7/18</td> <td>診療における危険予知と KYT</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 3</td> <td>8/22</td> <td>医療事故要因分析 (RCA)</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>9/9</td> <td>院内暴力とその対応・刺股の使用法</td> <td>129</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 4</td> <td>9/19</td> <td>コミュニケーションを考える</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 5</td> <td>10/17</td> <td>みんなで考えよう医療事故</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>教育講演</td> <td>11/25</td> <td>医療が安全であるために</td> <td>1,572</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 6</td> <td>1/16</td> <td>安全な業務を遂行するためには</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>事例学習会 7</td> <td>2/20</td> <td>医療現場におけるリスクを考える</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>診療倫理</td> <td>3/18</td> <td>大学病院は、このようにかかります</td> <td>486</td> </tr> </tbody> </table>		研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数	マニュアル講習会	4/3	医療安全の基本的な考え方	155	事例学習会 1	6/20	病院の安全と 5S 活動	38	事例学習会 2	7/18	診療における危険予知と KYT	28	事例学習会 3	8/22	医療事故要因分析 (RCA)	47	教育講演	9/9	院内暴力とその対応・刺股の使用法	129	事例学習会 4	9/19	コミュニケーションを考える	89	事例学習会 5	10/17	みんなで考えよう医療事故	55	教育講演	11/25	医療が安全であるために	1,572	事例学習会 6	1/16	安全な業務を遂行するためには	21	事例学習会 7	2/20	医療現場におけるリスクを考える	47	診療倫理	3/18	大学病院は、このようにかかります	486
研修名称	開催期日	研修の目的・主な内容	参加数																																														
マニュアル講習会	4/3	医療安全の基本的な考え方	155																																														
事例学習会 1	6/20	病院の安全と 5S 活動	38																																														
事例学習会 2	7/18	診療における危険予知と KYT	28																																														
事例学習会 3	8/22	医療事故要因分析 (RCA)	47																																														
教育講演	9/9	院内暴力とその対応・刺股の使用法	129																																														
事例学習会 4	9/19	コミュニケーションを考える	89																																														
事例学習会 5	10/17	みんなで考えよう医療事故	55																																														
教育講演	11/25	医療が安全であるために	1,572																																														
事例学習会 6	1/16	安全な業務を遂行するためには	21																																														
事例学習会 7	2/20	医療現場におけるリスクを考える	47																																														
診療倫理	3/18	大学病院は、このようにかかります	486																																														
⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	⑦・無																																																
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 ( ⑦・無 )</p> <p>改善のための方策の主な内容：</p> <p>インシデント事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療安全対策小委員会委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を前記小委員会 (月1回開催) において検討する。検討された内容は、科長会議、看護師長会議、医療安全対策実務者に伝達され、各部署へフィードバックならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の下部専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策室部内に設置された医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>インシデント事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>																																																	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	①有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： 基本的な考え方、組織および体制に関する基本的事項、従事者に対する研修の関する基本方針、感染症発生時の報告、感染症発生時の対応と連絡、報告体制、患者等に関する当該指針の閲覧</li> </ul>	
②院内感染対策のための委員会の開催状況	①有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： 分離菌報告、耐性菌報告と現状報告、針刺し切創報告、ICTラウンドおよび報告、新型インフルエンザ対策</li> </ul>	
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	①有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：            2008年4月15日                   結核院内感染を起こさないために（外部講師）            2008年5月20日                   職種における微生物検査の見方            2008年5月27日、7月9日       バンコマイシン耐性腸球菌の他施設共同疫学研究報告会（外部講師）            2008年6月11、13、18、25日   感染対策の基本            2008年7月25日                   知っておきたい臨床微生物（外部講師）            2008年10月10日                  患者と家族へどのように感染対策の教育を行ったら効果的か（外部講師）            2008年11月4、5、18、12月22日 結核対策マニュアル改訂講習会            2008年11月6日                   病院清掃の注意点と院内感染予防の基本について            2009年2月23日                   HIV/エイズに関するみんなの誤解（外部講師）            2009年3月17日                   自分も患者も感染から守る！</li> </ul>	
④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院における発生状況の報告等の整備                   （ ①有 ・ 無 ）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： ICT通信、感染対策NEWSに掲載 感染防止対策委員会委員、感染制御リンクナースのICTラウンド同行と現場からのICTラウンド報告書のフィードバックの強化</li> </ul>	

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①有・無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回程度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：20年度研修            看護師研修で医薬品の安全使用について講習（10月24日、29日、31日、12月6日）            薬剤師研修で医薬品の安全使用について講習（11月7日、26日、12月12日、2月6日）            医療安全全体会において医薬品安全使用のための業務手順書の講習（10月24日、11月13日）            新入生教育で医薬品の安全使用について講習（12月4、8日）</li> </ul>	
③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 （ ①有・無 平成19年4月制定、平成19年6月第1版改定、平成20年9月第2版大改定 ）            医薬品安全使用のための業務手順書の見直し改定を行い、医療安全全体会において講習会を行った。（10月24日、11月13日）</li> <li>・ 業務の主な内容            業務チェックリストによる手順書にもとづく業務の実施をチェック・評価</li> </ul>	
④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ ①有・無 ）            医薬品情報管理室で情報を収集し、毎月医薬品情報誌を作成配布</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容            医療安全巡回で医薬品安全使用状況の点検を実施・指導（2009年1月～2月）</li> </ul>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>① 春季新入職医師・看護師対象、診療基本マニュアル機器講習会（人工呼吸器、除細動器）</p> <p>② 秋季医療機器安全講習会 （人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニタ、除細動器等）</p>	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 ( 有 ) ・ 無 )</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器（麻酔器含む）、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、閉鎖機器保育器、ライナック輸液ポンプ、シリンジポンプ、ネブライザ、手術室医療機器各種点検または修復</p>	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有 ) ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>中央機材室ニュース、学内LAN（イントラネット）ホームページに配信、人工呼吸器動作状況確認巡回時に指導</p>	